

議会事業評価結果表【文教厚生委員会】

1. 事業名：音楽のあるまちづくり事業

2. 観点別評価

観 点	評 価	コメン
市民ニーズ	高 ・ 低	市民には一定の音楽需要があり、特に親子連れを中心に体験型・参加型のイベントに高い関心が示されている。クラシックなど特定層に支持される分野も存在する一方、事業全体の認知度は十分とはいえない状況にある。
成果向上の余地	有 ・ 無	認知度や満足度も目標を下回っており、成果向上の余地がある。これまで一定の役割を果たしたイベントもあり、社会の変化に応じた見直しや次の段階への移行が求められる状況にある。また、対象客層や市民参加型イベントの拡充などを通じて、更なる成果をあげる余地がある。
類似事業の有無	有 ・ 無	なし
コスト削減余地	有 ・ 無	セントラル愛知交響楽団の公演開催頻度を減らすことで、コスト削減ができる余地がある。

3. 評価及び提言

評 価	問題がある
方向性	合理化する
提 言 (いつ、何を、どうする、などを端的に記載)	【提言①】 いつ： 協定更新時 何を： クラシック以外の幅広いジャンル どうする： 多様な音楽ジャンルを扱う取り組みを進め、市民にとって身近な場所でのイベントを更に展開し気軽に参加できるようにする。 【提言②】 いつ： 協定更新時 何を： セントラル愛知交響楽団の公演 どうする： 開催頻度を年2回から1回に減らす。

理 由 (評価の経緯、提言の趣旨、提言理由などを説明)	【提言①に対する理由】 音楽事業をクラシックに限定するのではなく、多様なジャンルを取り入れることで、より幅広い世代の市民に音楽体験を提供できる。特に若い世代や親子が参加しやすいイベントを更に展開することで、市民参加の裾野が広がる。ダンスが学校教育に取り入れられているように、音楽においても多様な表現を通じて幅広い音楽体験ができる場を提供することが必要である。 【提言②に対する理由】 当初は高い集客を誇った協定事業も、10年を経て十分な来場が見込めなくなっている。また、来場者層が固定化し、若者や親子など幅広い世代の参加が十分に得られていない。事業の認知度や満足度も目標を下回っており、成果は一定程度あったものの対象層が限定的である。以上から、開催頻度を年2回から1回に減らす必要がある。
--	--